

話題 其の52: “ヨルダンの教育事情”

ヨルダンに単身赴任して2年7ヶ月、一人で過ごす退屈な週末を、有意義にしてくれるのが青年海外協力隊の隊員達です。

彼らは「自分も途上国で、役立つことをしたい」という素直なボランティア精神と共に、求道心、決断力、行動力に富んだ若者達です。

現在活動中の隊員は、看護、保健、養護、職業訓練、写真などに26名です。(女性16名) その彼らも、アラブの大地にしっかりと根付いた文化や教育の違いに戸惑いや憤りを強く感じています。それは、私自身も同じように感じていたことですが、彼らの活動現場に於ける体験は、極めて厳しいアラブ文化との遭遇です。既に任期を終えて帰国した隊員の話も交えて一部紹介するします。例えば、「職業訓練センターの先生方の殆どは、汗を流して実技指導をすることも無く、遅刻者を棒で叩き、作業を命じてお茶を飲んでいるのが日常だ」とか、精神障害児の施設では、一番大切な子どもとのスキンシップを嫌い、逆に「汚いと罵る場面もある」とか、産婦人科の診療所などでは「患者のプライバシーが無視され、患者のケアよりもお茶の時間が大切にされている」と聞きます。これらは軽く表現していますが、実際にはもっと厳しい現状もあるようです。

「教育や医療に携わる人達の、子どもの人権尊重という意識が殆どない」というのが多くの隊員達の生活体験です。という事は、指導員や医療従事者の生い立ちに問題があるのでしょうか? 人権教育はどのように為されているのでしょうか?

ヨルダン教育局から入手した、児童教育履修要綱には、体育、図工、音楽などの授業項目は含まれているものの、それらの授業を受け持つ教師を育てる大学教育が整備されていません。

という事は、ヨルダン政府が情緒教育そのものを重要視していないのでしょうか。従って、子ども達はテレビで音楽や本格的な運動競技を目にすることはあっても、ピアノの音に合わせて声を出したり、運動場で全力疾走したり、友達と協力してドッチボール大会で勝ったり負けたりした経験が無く、図工の時間に花や果物を描写するという経験も少ないと現地の人も証言します。

情緒教育は、「子ども達が本来持っている感情性を、音楽や美術などで表現することで豊かに伸ばすことだ」と理解しています。

日本では、その重要性を認識しているようで「ゆとりの時間」とか「体験学習」と呼ばれる取り組みがなされているようですね。

ではヨルダンでは、子ども達への躰も含めた情緒教育をどのように実施しているのでしょうか? その答えと取れるヒントを児童教育履修要綱にを見つけました。

以下にヨルダンの公立小学校の主な授業項目と1週間の実施時間を示します。

学年	授業時間/週	イスラム学	図工	体育	音楽	*職業指導
1年生	31時間	3時間	1時間	2時間	1時間	1時間
2年生	31時間	3時間	1時間	2時間	1時間	1時間
3年生	32時間	3時間	1時間	2時間	1時間	1時間
4年生	32時間	3時間	1時間	2時間	1時間	1時間
5年生	33時間	3時間	1時間	2時間	1時間	2時間
6年生	34時間	3時間	1時間	2時間	1時間	2時間

イスラム学習は1時間がコーランの詠唱と暗記、2時間はイスラム教の学習となっています。また、*職業指導とは、手工芸指導の事だと職場の担当者に聞きました。

この表から解るように、イスラム学習の比重は大きく、そこに躰や情緒教育の役割を持たせているのかと想像しています。唯一絶対の神に対する信仰心と、宗教を規範にした道徳心や躰を教えることは、イスラム世界では大切なことです。でも、イスラム学習と言へども、教室の中で行われる授業形式では、先生から生徒への一方通行の場面が多く、体育、音楽、図工など子どもが自ら創造し、動き、協力し合う事で学び取る人間同士の尊厳性(思いやり)を教える事は難しいでしょう。

決してイスラム批判ではなく、人権意識を持った教育者の育成が何より重要だと感じています。
